

糖尿病神経障害検査について



糖尿病患者さまや予備軍の方々は年々増加傾向にあり、平成20年で約2,000万人います。高血糖がつづくと、網膜症、腎症、神経障害などの合併症がおこりやすくなります。中でも神経障害は、一番多い合併症で、早い時期から始まることが多いと言われています。また、こでや手よりも足にでやすく、痛みを感じないので、受診までの期間が長くなり、その間に、足の変形や潰瘍、壊死といった糖尿病足病変になることがあります。神経障害は、軽症のうちにはしっかりとコントロールを続けていれば、症状を改善することが可能な合併症です。足の症状や見た目の変化、または知覚検査や血流検査などで早期発見することができます。



検査の種類と方法

知覚検査

振動覚

振動させた音さくるぶし(内側)に当て、振動を感じなくなるまでの時間を測定します。10秒以上が正常です。



アキレス腱反射

ベッドの上に、ひざ立ちで手を壁につけて、アキレス腱を打鍵器でたたいて反射を見ます。神経障害が起きると、反射がなくなります。

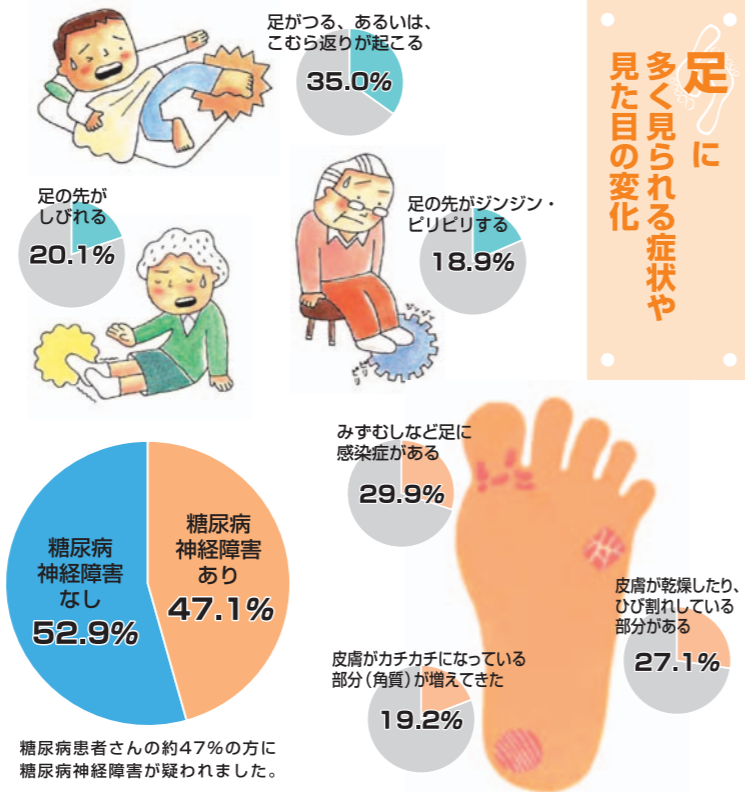


タッチテスト

細長い繊維(フィラメント)で足の裏を押し、それを感じることで、さかどうかを調べる検査です。



足に多く見られる症状や見た目の変化



血流検査

血圧脈波検査

両手で、両足首の4ヶ所に血圧計を巻き(センサー)を装着し、血圧を同時に測定する事によって血管の硬さや詰まり具合を見る検査です。痛みはなく、数分で終了します。

PWV(血管のかたまり)

心臓から押し出された血液により生じた拍動(脈波)を測定して、血管の硬さを評価します。血管が硬くなると、拍動(脈波)の伝わり方が早くなります。健康者年齢などにもよりますが、1400~1600程度です。PWV値が高くなるほど動脈硬化が進行しています。

ABR(血管の詰まり具合)

両手で両足首の血圧を測ると、足の血管の内側が狭くなっている程度がわかります。足の血管が詰まると血液の流れが悪くなり、うでの血圧より足のほうが低くなり、ABRは低下します。

TBI

(足先の血管の詰まり具合) 両手で両足指の血圧の比より求めます。足先の血管の詰まり具合を見ます。

サーモグラフィ検査

身体の皮膚の表面温度を画像にする検査です。手足の血液がうまく循環できなかつたり、神経障害がおきると、皮膚の温度変化が見られます。特に、細い末梢血管をみるのに有用です。検査は、約20分間安静にしていただき、カメラで手や足を撮影して、温度分布を見ます。痛みはありません。血流量の多い部分は温度が高いため赤くなり、流れの悪い部分は温度が低いため青くなります。検査の注意点として、身体の温度が変化するため、①当日湿布などを貼らない。②4時間前よりタバコはすわない。などがあります。

足チェックシート

あなたの足は大丈夫ですか?

- 足に以下のような症状はありませんか?
1. 足の先がジンジン・ビリビリする はい いいえ
 2. 足の先がしびれる はい いいえ
 3. 足の先に痛みがある はい いいえ
 4. 足の感覚に異常がある(感覚が鈍い、痛みを感じにくい、ざらざらした感触など) はい いいえ
 5. 足がつかえる、あるいは、こむら返りが起こる はい いいえ
- 最近、見た目以下のような変化は出ていませんか?
1. 皮膚が赤くなったり、はれたりしている部分がある はい いいえ
 2. 小さな傷でもなかなか治らない はい いいえ
 3. うおのめ、たこ、まめ、あるいは靴ずれがよくできる はい いいえ
 4. 皮ふが乾燥したり、ひび割れている部分がある。 はい いいえ
 5. 皮ふがカチカチになっている部分(角質)が増えてきた はい いいえ
 6. 水虫など足に感染症がある はい いいえ

本調査結果は、この足チェックシートのアンケート集計に基づいて作成しました
出典：日本糖尿病対策推進会議

